資料３

（３）後天性免疫不全症候群及び梅毒　発生状況

１　後天性免疫不全症候群（Acquired Immunodeficiency Syndrome；AIDS,エイズ）

1-1. 疾患概要

ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus；HIV）感染によって生じ、重篤な全身性免疫不全により、適切な治療が施されないと日和見感染症や悪性腫瘍を引き起こす状態をいう。

近年、治療薬の開発が飛躍的に進み、早期に服薬治療を受ければ免疫力を落とすことなく、通常の生活を送ることが可能となってきているが、世界中で年間約 130 万人の新規感染者、約 63 万人の死亡者が出ているとされ、いまだ重要な感染症の一つである。

5 類感染症全数報告指定疾患。

（注）発生届け出は HIV 感染者と AIDS 患者で区別される。

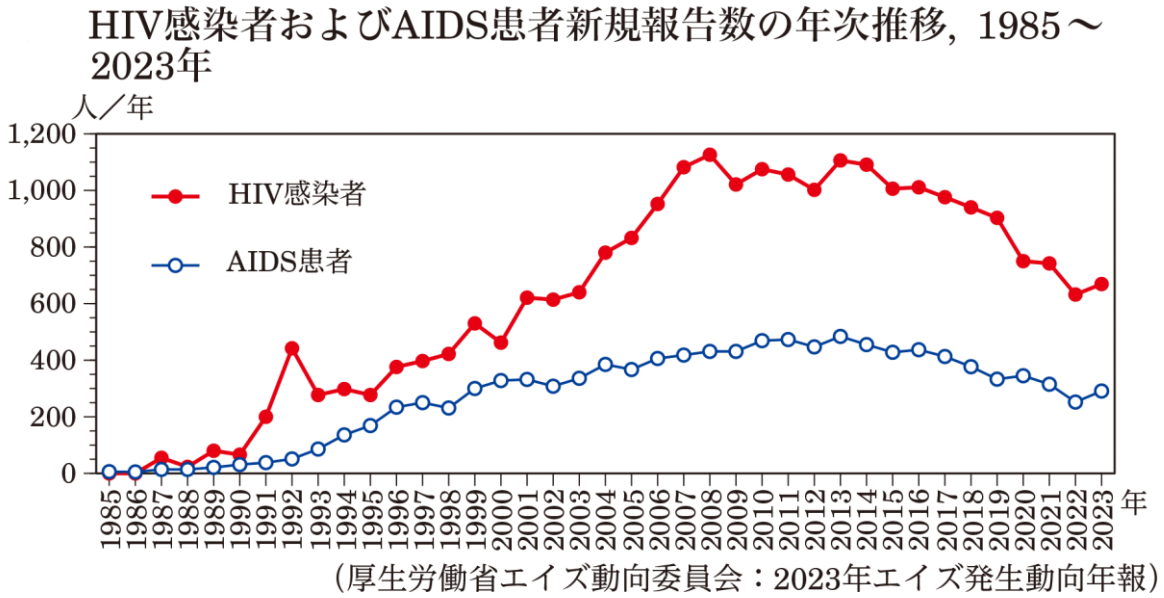
HIV 感染者：感染症法に基づく届出基準に従い「後天性免疫不全症候群」と診断されたもののうち、 AIDS 指標疾患を発症していないもの。

AIDS 患者：初回報告時に AIDS 指標疾患が認められ AIDS と診断されたもの（既に HIV 感染者として報告されている症例が AIDS と診断された場合には含まれない）

1-2. HIV/AIDS の発生状況

（１）全国の発生状況

2023 年の新規報告数は，HIV 感染者 669（男性 649，女性 20），AIDS 患者 291（男性 282，女性 9）であった。HIV 感染者年間新規報告数が 7 年ぶりに増加し，AIDS 患者年間新規報告数は 3 年ぶりに増加した。この増加については、新型コロナウイルス感染症の流行にともなう検査機会の減少等の影響で、2020 年以降、無症状感染者が十分に診断されていなかった可能性に留意する必要がある

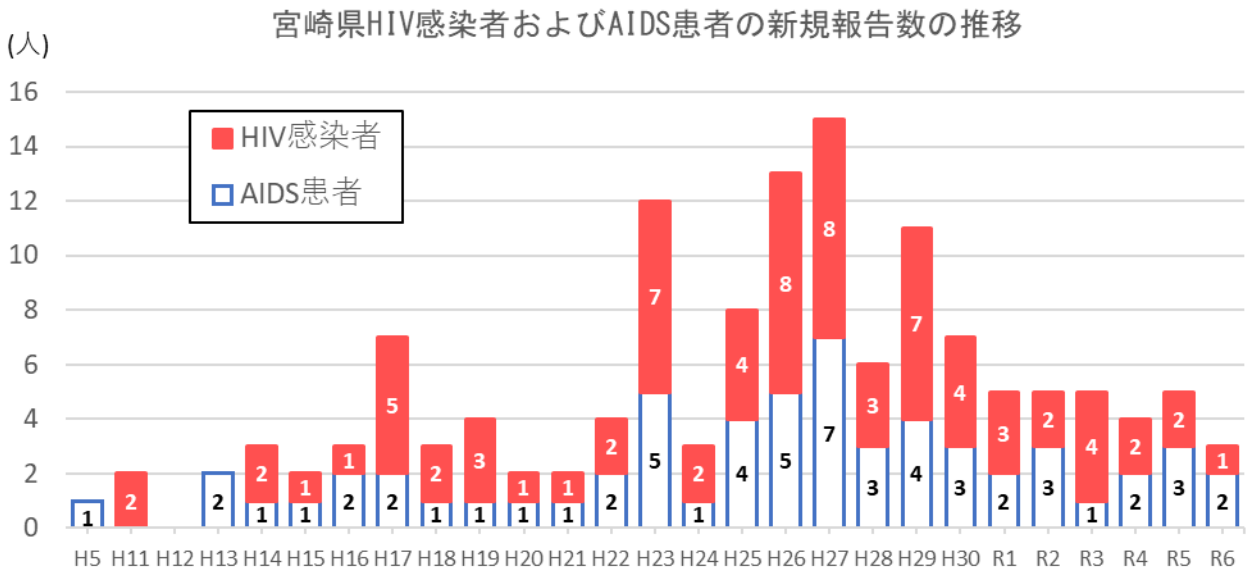


【出典】国立感染症研究所　病原微生物検出情報(IASR)2024 年 10 月号

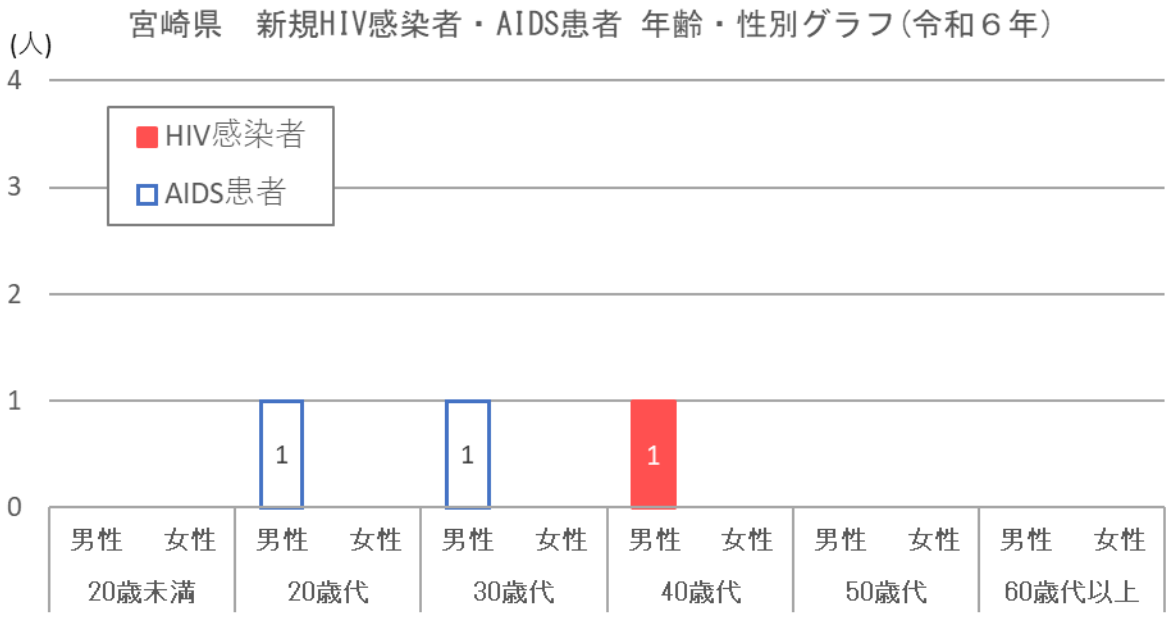
（２）県内での発生状況

●新規報告者数の推移

県内では直近５年間の間、継続して５人前後の新規感染者が毎年発生している。



●令和６年　宮崎県新規報告者　年齢・性別内訳　（ｎ＝３）



２　梅毒

2-1. 疾患概要

梅毒トレポネーマにより引き起こされる細菌性の性感染症。主にセックスなどの性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染する。

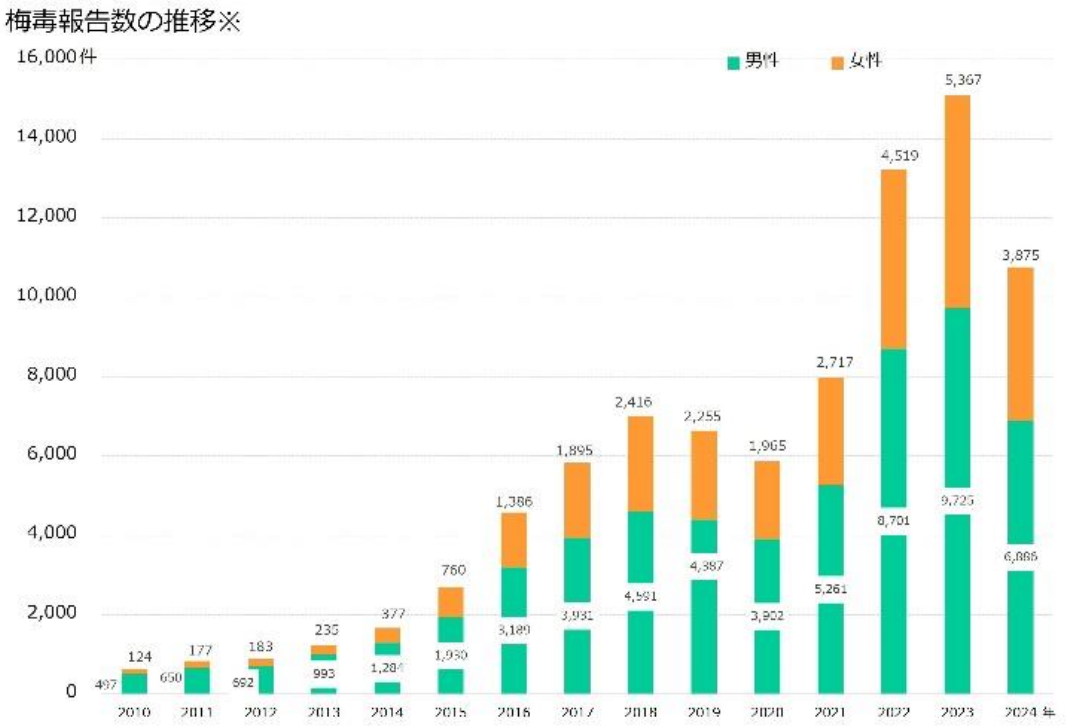
早期の薬物治療で完治可能だが、全身に多彩な臨床症状をきたすため、適切な抗菌薬治療を受けなければ深刻な健康上の影響が起こりうるほか、完治しても再感染する可能性がある。また、母子感染により、流産、死産、先天梅毒などを起こしうることも重要な問題である。

5 類感染症全数報告指定疾患。

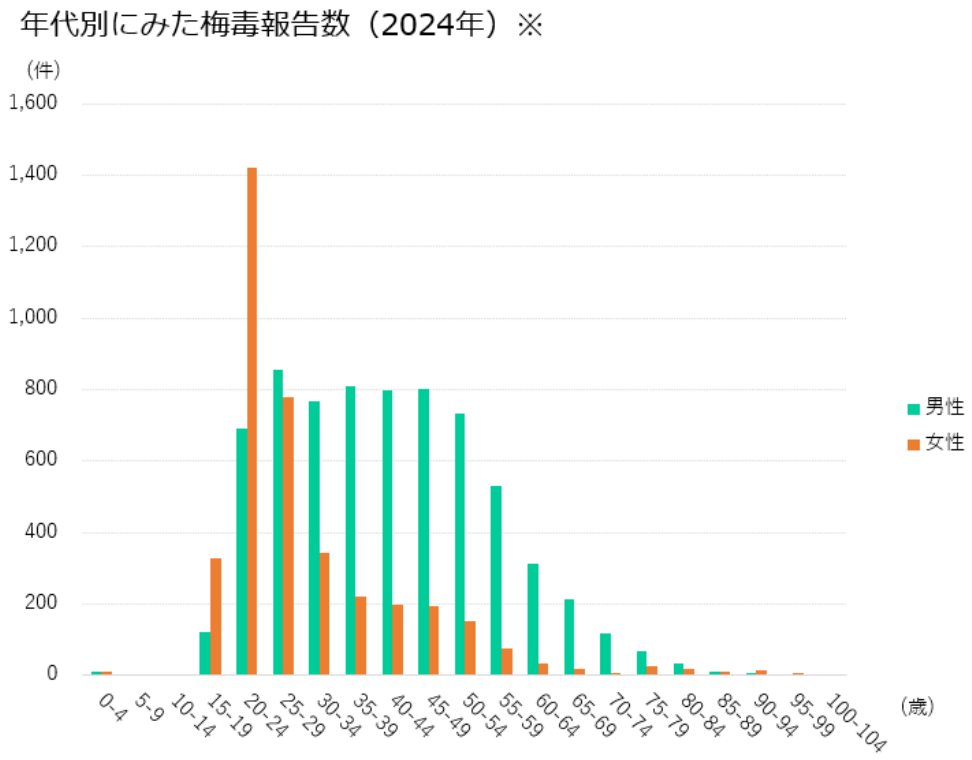
2-2. 梅毒の発生状況

（１）全国の発生状況

梅毒の報告数は 2011 年頃から増加傾向となり、2019 年から 2020 年に一旦減少したものの、2021 年以降大きく増加している。2022 年以降は年間 10,000 例を超える報告がされており、注意が必要な状況が続いている。



※2024 年の総報告数は、2024 年 10 月 2 日までに届出のあった報告数（暫定値）であり、第 39 週（2024 年 9 月 23 日～2024 年 9 月 29 日）までに診断されていたとしても遅れて届出のあった報告は含まない。



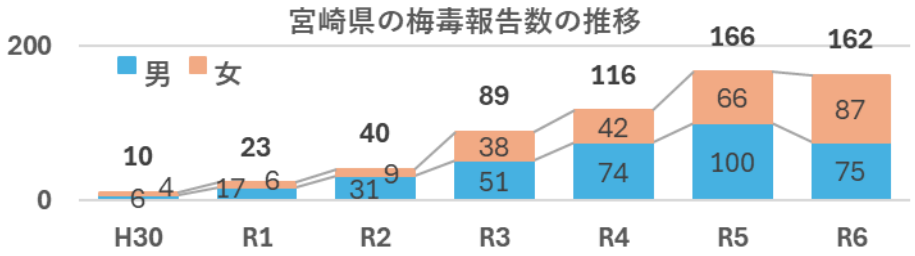
※2024 年の総報告数は、2024 年 10 月 2 日までに届出のあった報告数（暫定値）であり、第 39 週（2024 年 9 月 23 日～2024 年 9 月 29 日）までに診断されていたとしても遅れて届出のあった報告は含まない。

【出典】厚生労働省ホームページ『梅毒』

（２）県内での発生状況

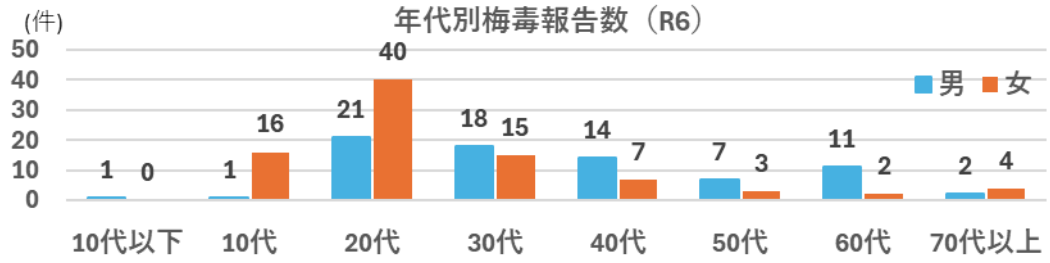
１　報告件数

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
男	6	17	31	51	74	100	75
女	4	6	9	38	42	66	87
計	10	23	40	89	116	166	162

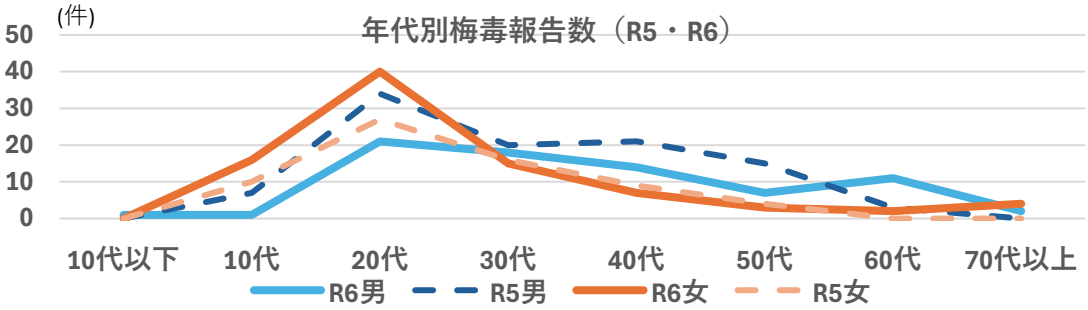


令和６年は１６２件の報告があった。（最多報告の令和５年とほぼ同ペースである。）

２　診断時の年齢

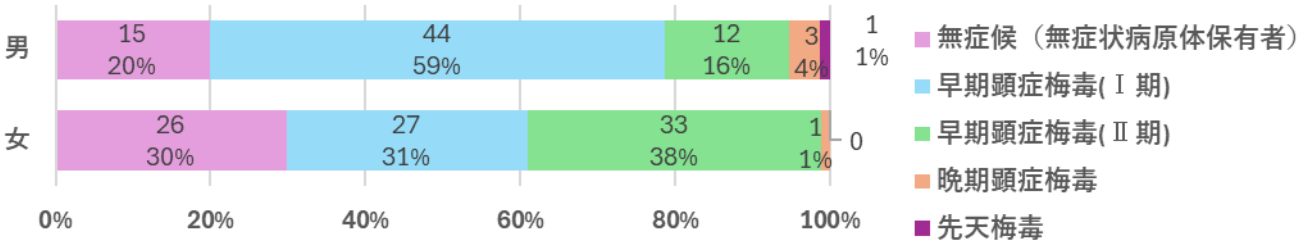


男女とも２０代の感染者が多く、全年代の約４割を占めている。



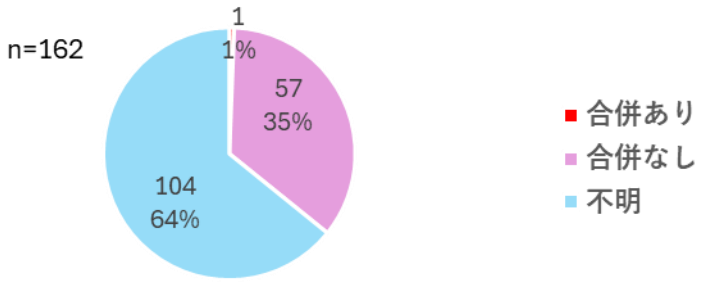
令和６年の１０代・２０代では、女性の方が男性よりも報告数が多い。

３　診断時の病型



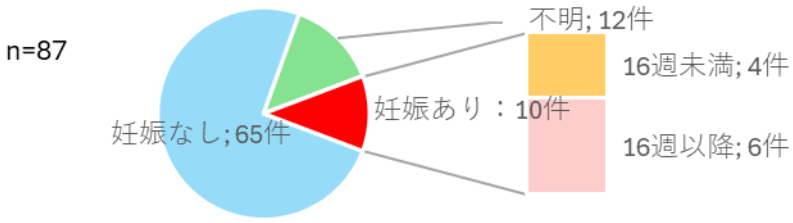
男女で早期顕症梅毒（Ⅰ期、Ⅱ期）が約７割を占めている。また先天梅毒が報告されている。
女性では、無症候期の報告割合が令和５年は４割であったが、令和６年は３割と減少している。

４　HIV 感染症合併の有無



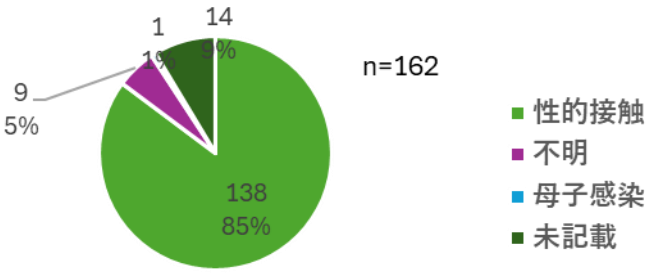
HIV 感染症合併ありの者は１名で、男性であった。
HIV 感染の確認検査不明である場合が、男性では約７割、女性では約５割を占めていた。

５　妊娠の有無



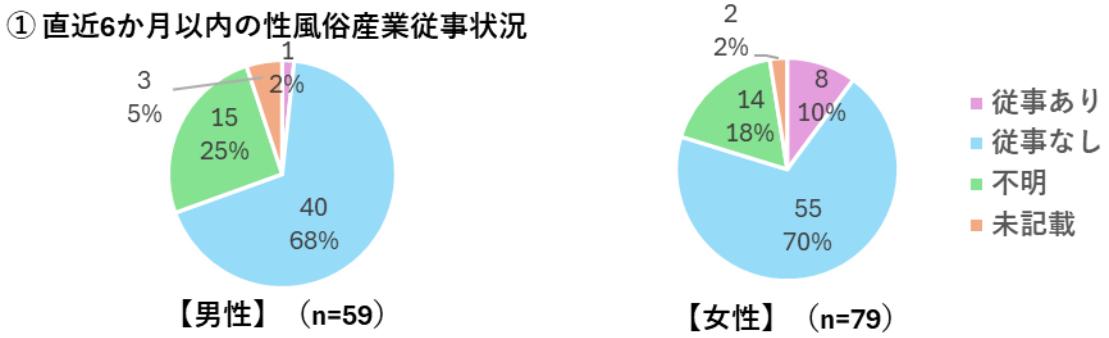
女性の届出８７件の内、「妊娠あり」の者は約１割の１０名であった。

６　感染原因・感染経路

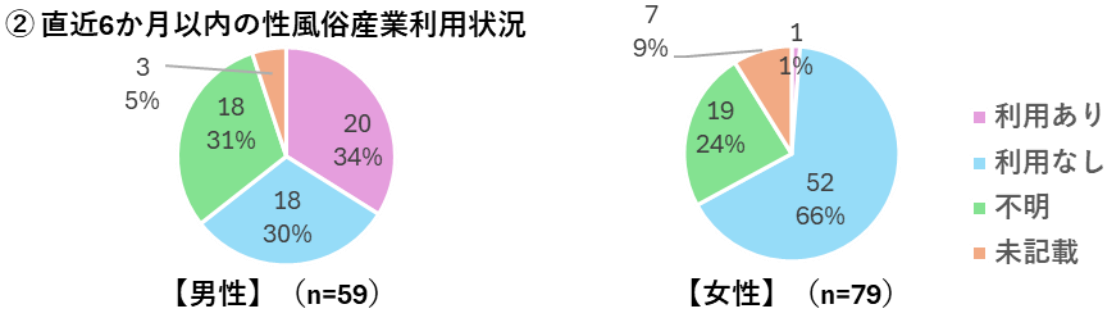


母子感染１名を除く、「不明」、「未記載」以外の感染経路は全て「性的接触」によるものであった。

7　感染原因・経路が「性的接触」である者（138 名）の性風俗産業利用・従事状況



直近６か月以内の性風俗産業の従事歴は、女性の届出の１０％であった。
（令和４年は１７％、令和５年は１７％）



直近６か月以内の性風俗産業の利用歴は、男性の届出の３４％であった。
（令和４年は３５％、令和５年は２７％）

３　県の取り組み

3-1. 梅毒・HIV 無料匿名検査事業

（１）医療機関（令和６年）

・県内（宮崎市、都城市、延岡市、日南市、えびの市、小林市、都農町、川南町、西米良村）の医療機関にて実施

・実施概要

	実施期間	医療機関数	検査件数
第１期	R6.8.8～9.14 （38 日間）	21 医療機関	48 件 （TP 抗体陽性 4 件）
第２期	R7.1.6～2.28 （54 日間）	21 医療機関	実施中

（２）保健所（通年）

・県内保健所において通年で実施（通年、月 1～2 回程度）

・対象疾患：HIV、梅毒、性器クラミジア感染症、淋菌感染症、
B 型肝炎、C 型肝炎

・令和６年度県保健所における検査実績【4～12 月分暫定値】
（　）は昨年同期

	HIV	梅毒
検査件数	230（237）	223（225）
TP 抗体陽性者数	0（ 0 ）	7（ 9）

3-2. HIV 検査普及週間・夜間特例検査（例年）

①HIV 検査普及週間（6 月）に、メディアでの広報の他、県内 2 保健所で「休日及び夜間検査窓口」（エイズ相談・HIV 抗体検査）を開設

②世界エイズデー（12 月）に合わせて、県内の 3 保健所において無料・匿名での夜間特例検査を実施

3-3. エイズ治療中核拠点病院強化事業（例年）

①エイズ治療中核拠点病院内にカウンセラー等を設置

→HIV 感染者及びその家族における、社会的・精神的な問題の軽減に寄与

②エイズ治療拠点病院等の主治医からの依頼により、HIV カウンセラーを派遣

3-4. 普及・啓発

①県独自の啓発媒体の配布（ポスター、リーフレット、コースター、ポケットティッシュ）

配布先：飲食業店、高校、大学・高校・専門学校、市町村、保健所等

②繁華街、商業施設での街頭キャンペーン（令和６年 12 月）

- 繁華街（宮崎）（ポケットティッシュ＋コンドーム）
- 商業施設（宮崎、都城、延岡のイオンモール）（ポケットティッシュ）

③テレビ、SNS 等による啓発（令和６年８月～９月、11 月～２月）

- テレビＣＭ、テレビ番組特集、ラジオ番組特集
- SNS 広告（LINE、YouTube、Instagram、X（旧 Twitter））
- 街頭ビジョン広告

④県ホームページでの各種広報